

アラビア語の定冠詞

kwoj

2021 年 8 月 8 日


(2021 年 8 月 15 日最終更新)

梗概

時間がなかったので定冠詞の音変化についてまとめる。今回書く予定だったセム祖語の名詞形態論については第二回レポート「セム祖語の名詞類」として後日投稿予定である。

結ぶハムザと定冠詞

セム祖語から時代が下って古典アラビア語の時代になると、音節構造についての制約は強まり^[1]、許される音節構造は CV (軽音節) と CVC, CV: (重音節) および特殊な条件下での CV:C, CVCC (超重音節) のみになった(C は子音、V は母音)。例言すれば、CCV のような語頭に二重子音を有する音節構造は、声門閉鎖を伴わないただの短母音 /a, i, u/ が語頭音挿入されるようになった。これが**結ぶハムザ**(刺: *hamzat al-waṣl*, 英: *weak hamza*)の起源である^[2]。結ぶハムザは談話の始め(談話頭)以外で脱落する(Ryding 2005: 19)。脱落した結ぶハムザは、(1) に示すように**ワスラ**(刺: *waṣla*)をつけることによって表示されうる。

(1)  (waṣla を ʔalif にのせたもの)

古典アラビア語期にはすでに定冠詞 ʔal が最初の二分節音 = 「/ʔa.../」部分は談話頭以外で脱落し、語頭音挿入されるようになっていた(2)。

(2) |lamʔakraʔ| + |ʔal-kita:ba| → lamʔakraʔ-i l-kita:ba 「私はその本を読まなかった」
(Fischer 1997: 196)

[1] いつから強まっていたのかはまだ把握していないが、セム祖語は異音的な成節子音によって C{l, m, n} が存在するなどしたらしい。

[2] 出現位置についてはリンク先を参照。リンク先は第一回の勉強会で教わったものです。この場をかりて感謝します。

太陽文字と月文字

セム祖語の**提示**の助詞 *hal, *han が文法化して定冠詞の用法が生じた(Huehnergard 2019)。アラビア語の定冠詞は一見して *hal に由来するよう見えるが、用法以外については祖語とはあまり関係ないらしい(Pat-El 2009)。(古典)アラビア語の定冠詞は、太陽文字(刺: *Huruuf famsijja*, 英: sun letters)と呼ばれる舌頂音^[3] /t, θ, d, ð, r, s, ʃ, ʒ, ɗ, ʈ, z, l, n/ にはじまる単語のまえでは /l/ の発音をうしない、重子音(≈促音)として実現した。東外大モジュールの示すとおり、現代標準アラビア語も同様である。※おおくのラテン文字転写はこの逆行同化を表記しない(Ryding 2005: 42)ことには注意が必要である。

参考文献

Fischer, Wolfdietrich 1997 Classical Arabic, *The Semitic Languages*. Oxford: Routledge.

Ryding, Karin C. 2005 *A Reference Grammar of Modern Standard Arabic*. Cambridge: Cambridge University Press.

Huehnergard, John 2019 **Proto-Semitic**, *The Semitic Languages*, second edition. Oxford: Routledge.

Pat-El, Na'ama 2009 The Development of the Semitic Definite Article: A Syntactic Approach, *Journal of Semitic Studies* 54. Oxford: Oxford University Press.

[3] /d͡ʒ/ のみはこれに含まれない。たぶんこれだけセム祖語 *g に遡源するためだと思うけどこれまでに読んだ資料には書いてなかった